

2013アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[海星学院高等学校] 担当教諭名[山根 洋・藤橋 由佳・市川 栄作] (2年 57名)

交流相手国[インドネシア]

海外学校名[SMAN21High School Surabaya] 担当教諭名[Mohamado Arifana]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際理解	20

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	「Environment」
絵に込めたメッセージ	互いの国・地域・学校における環境への取り組みについて協同学習をすすめ、持続可能な社会の実現の重要性を分かち合った。この絵を見た人に、環境について考えてもらう契機となればという願いを込めて、作成した。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・相手国の文化、言語に対する生徒の興味、関心が高まった。 ・英語を母国語としない者同士が英語を使って交流することで、生徒の教科への興味関心が高まった。 ・草の根レベルでも海外の高校との交流チャンネルが広がった。 ・強い達成感を味わい、生徒の自信につながった。 ・相手国の環境意識の高さに生徒は刺激を受けた。 	

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
<ul style="list-style-type: none"> ・学校内廊下に作品を掲示 ・学校便り(地域の諸団体、近隣の教育機関に配布)、学校 HP、新聞による広報 ・市川は、ユネスコスクール研修会やユネスコ地域イベントなどで事例発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や近隣の中学・高校の教員から評価を受けた。 ・生徒、教員から次年度の2年生にも継続してほしいとの声が多い。 ・新入生登校日に、廊下に掲示された作品を見て、新入生とその保護者が目を輝かせていた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	8月	・活動内容発表 ・役割分担、班編成(地域紹介作成班、学校紹介作成班、英語翻訳班、写真撮影班、スカイプ班、インドネシア調査班、美術班)	・7月上旬に教員のメール交流開始 ・希望調査をもとに班編成、各班からリーダーが選出され、修学旅行(9月)後のスカイプを前提に、活動開始。	
情報収集	9月	調査に関する各班が活動開始 ・テーマについて検討開始 ・11月中旬に日本側の学校紹介と動画をフォーラムにアップ。	・各班、活発に活動した。 ・11月上旬に相手側の学校紹介がフォーラムにアップされ、活動意欲が高まった。	
テーマ検討	11月	・11月下旬、スカイプ実施し、学校紹介・テーマの調べ学習を発表し合う。 ・デザインのラフスケッチをフォーラムにアップ。	・ネット環境が厳しい中でもスカイプが大いに盛り上がり、制作にスムーズに移行できた。	
制作	12月	・制作の様子をフォーラムにアップ。無事完成。発送。	・スカイプの成功で、美術班以外の生徒も制作に積極的に参加。	
鑑賞	3月	・2月に事務局の協力で、相手校の絵画が完成のスカイプ交流実施。 ・3月中旬に2年生で鑑賞会。以後、廊下に掲示し、全校生徒が鑑賞。	・2年生全体の面前で開封され、喜びと達成感を共有することができた。裏面にも温かいメッセージが多数あり、生徒は丹念に鑑賞した。	

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:あまり重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	地域の環境への取り組みを調べ、地域の夜景が観光資源となりえた背景・環境への取り組みの重要性に理解が深めた。
異文化の理解	A	4	交流の振り返りにおいて、相手との「相違点」「共通点」の観点から整理し、多くの共通点に喜んだ。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	アメリカ修学旅行で培ったコミュニケーション能力を発揮したが、スカイプを通じ語学力の必要性を再確認していた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	限られた時間で、わかりやすく端的に物事を伝え、プロジェクトを進めることを意識し、相手の立場にたって準備することができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	全員が自分の役割ばかりでなく、周囲のサポートを自然に行い、人間関係が深まった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	校内的にはしっかりと協力体制を整えることができたが、相手との役割分担には事務局の援助を必要とした。
学習を追究する意欲	B	4	プロジェクトの魅力が強い動機付けとなり、学習や活動全般に対して意欲的に取り組んだ。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	短い期間で、伝えたいテーマや価値観を的確に表現することができた。昨年の反省をいかし制作時間をより確保できた。
作品を鑑賞する力	B	4	相手校の画力の高さと作品の調和に驚き、その努力に対して敬意を持った。